

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第46週〔11月14日～11月20日〕

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/  
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

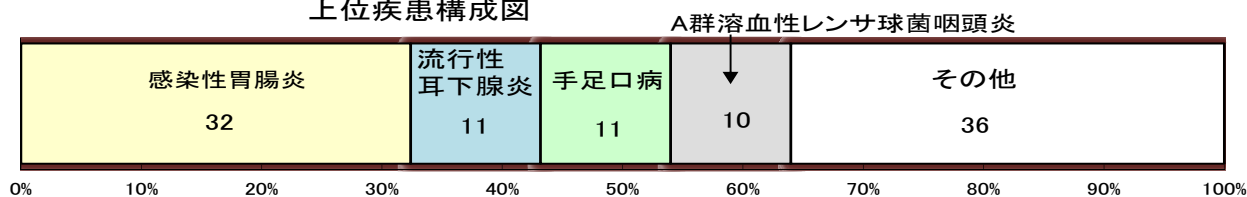
## 県内情報

### ○ 患者情報総評

#### 注意報発令疾患：なし

- 朝晩の寒さが本格的になってきており、体調管理に十分注意が必要である。
- 感染性胃腸炎**は高知市で約1.5倍に増加したが、その他の地域で減少または横ばいとなり、総数はやや減少した。しかし、例年これからの時期は報告数が急増しており注意が必要である。
- 流行性耳下腺炎(安芸：注意報、幡多：注意報→注意報、高知市：注意報→注意報)**は安芸で増加したが、その他の地域で減少したため、総数は減少した。
- 手足口病(安芸：注意報→注意報、中央西：注意報)**は総数は横ばいであったが、中央西では増加し注意報値を超した。安芸では引き続き注意報値を超している。
- 伝染性紅斑(幡多：注意報→警報、中央西：注意報→注意報)**は総数はやや減少したが、幡多で増加し再び警報値を超した。また、中央西では引き続き注意報値を超しており、注意が必要である。
- 流行性角結膜炎(高知市：注意報→注意報)**は今年に入ってから0～3例で推移していたが、前週高知市で4例報告があり注意報値を超したが、今週は5例報告され引き続き注意報値を超している。

上位疾患構成図



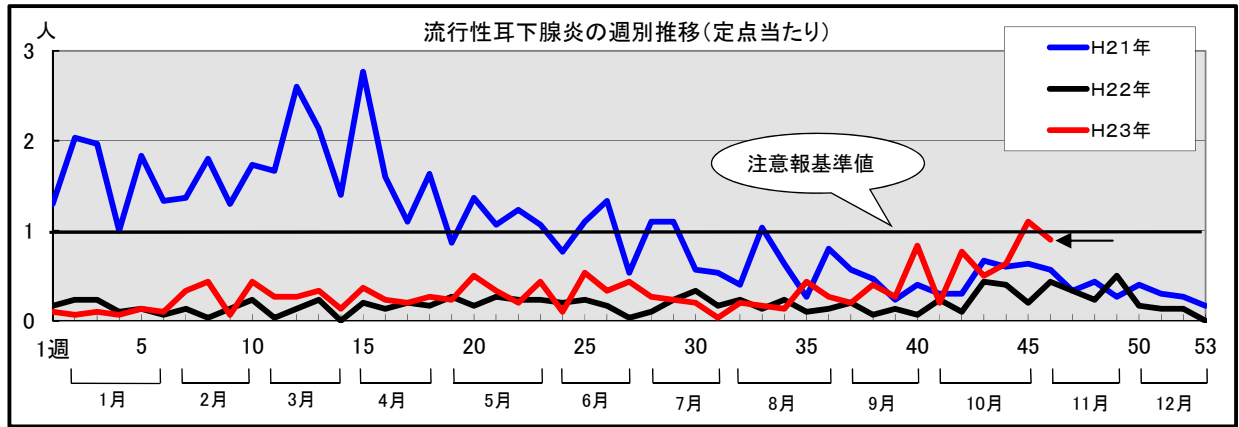
## 地域別感染症注意報・警報発生状況

第46報 (2011年11月14日～2011年11月20日)



### 流行性耳下腺炎：今週 0.90 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

総数はやや減少し注意報値を下回ったが、幡多と高知市では引き続き注意報値を超しており、新たに安芸で注意報値を超した。2年間ほど流行はみられていなかったが、9月頃から増加傾向となっており、今後の推移に注意が必要である。



**マイコプラズマ肺炎：今週 0.29 （注意報値：0.60 警報値：2.00）**

報告数としては多かった時期に比べると落ち着いてきたが、高知市で再び注意報値を超した。搬入される検体は多く、毎週 *Mycoplasma pneumoniae* が検出されており、今後も注意が必要である。

**インフルエンザ：今週 0.02 （注意報値：10.00 警報値：30.00）**

今週は高知市で1例（30代男）報告され、迅速キットの結果はA型陽性であった。例年12月中頃から報告数が急増しており、今後の推移が注目される。

**検査情報**

受付週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
46	感染性胃腸炎	1歳 女	高幡	Adenovirus 40/41
46	マイコプラズマ肺炎	3歳 女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
46	マイコプラズマ感染症	11歳 男	中央東	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
46	マイコプラズマ肺炎	8歳 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 2例（60代女）《高知市》（90代男）《安芸》（今年173例）

○ **定点からの地域ホット情報**

**幡多**

《さたけ小児科》：ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳男）

《松谷内科》：流行性耳下腺炎 1例（24歳男）

**中央西**

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例（2歳女）は土佐市

《日高クリニック》：アデノウイルス扁桃炎 3例（1歳男:2例, 4歳男） 帯状疱疹 1例（64歳女）

**高知市：**

《けら小児科・アレルギー科》：咽頭結膜熱の2例（1歳男女）はアデノウイルス陽性  
 感染性胃腸炎の1例（7歳男）はカンピロバクター腸炎  
 百日咳の1例（11歳女）は山口株160倍から640倍に上昇、DPT4回済み  
 マイコプラズマ肺炎 3例（8, 10歳女, 7歳男）  
 ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳男）

《近森病院内科》：インフルエンザの1例（30代男）はA型陽性

**中央東**

《あけぼの小児クリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（9歳男）

《早明浦病院小児科》：マイコプラズマ肺炎 1例（4歳女）

**安芸**

《田野病院小児科》：アデノウイルス扁桃炎 1例（1歳女）

**全国情報第44週（10/31～11/6）**（ <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html> ）

2類感染症：結核350例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症49例（有症者22例、うちHUS なし）、腸チフス1例

4類感染症：A型肝炎1例、チクングニア熱1例、つつが虫病13例、日本紅斑熱12例、レジオネラ症13例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎（B型）3例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群9例（AIDS 2例、無症候7例）、ジアルジア症1例、梅毒10例、風しん4例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎1例、日本紅斑熱2例、レプトスピラ症6例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

#### ◆細菌性赤痢（2011年11月9日現在）

赤痢菌（*Shigella*）は主にヒトの腸管に存在し、患者や無症状病原体保有者の糞便、それらに汚染された手指、食品、水、物などを介して、直接あるいは間接的に伝播する。赤痢菌の排泄は疾患（細菌性赤痢）の急性期に最大となる。赤痢菌は環境中では生存しにくい、食材の中で生存でき、また10～100個というわずかな菌量でも感染が成立するため、食中毒の重要な原因菌の一つである。一方で、糞口感染によって最も効率よく伝播し、保育園や知的障害者施設等の福祉施設などで接触感染として流行しやすく、さらに家庭内での二次感染率も高く40%に達する場合もある。また、性行為によっても伝播する可能性があり、海外では同性間性的接触による細菌性赤痢の集団発生について、既に1970年代頃から報告がある。症状の程度は菌種（*S. dysenteriae*、*S. flexneri*、*S. boydii*、*S. sonnei*）にもある程度依存する（*S. dysenteriae*や*S. flexneri*は膿粘血便やしぶり腹等の典型的な症状を起こすことが多く、*S. sonnei*の場合は軽微な下痢や無症状で経過することが多い）が、宿主の年齢や免疫状態、栄養状態によるところが大きい。

2011年の細菌性赤痢は、診断第1～44週の累積報告数が264例で、患者250例、無症状病原体保有者14例であった（無症状病原体保有者は、探知された患者と食事や渡航を共にした者や、患者と接触した者に対する保健所の調査などによって発見される）。原因菌の菌種内訳は、*S. sonnei*が207例で最も多く、次いで*S. flexneri* 45例、*S. boydii* 9例、菌種不明3例で、感染地域別では、国外120例、国内142例、不明2例であった。

これらのうち、*S. sonnei*感染例について、2009～2011年第44週の週別報告数をみると、2011年は過去2年と比較して最も多く推移している。2011年の発生状況についてはこれまでも掲載したように、第34～39週に複数の自治体から国内感染例が計71例報告され、これらのうち40例は疫学調査および菌株の分子疫学解析（MLVA法）により、国内の同系列外食チェーン店舗に関連した食中毒事例等であることがわかっている。しかし、この事例の終息後も、国内感染例が複数の自治体から報告されており、さらに、自治体から提供された範囲での菌株について国立感染症研究所細菌第一部でMLVA法による解析を行った結果、同一の*S. sonnei*によると推定されるクラスターの存在が確認された。

クラスターは、第44週現在までに6自治体からの計20例の報告例で構成されている。1例目は第24週に報告され、その後第34週以降の報告例が大半を占めているが、これは上述の食中毒事例の影響によって、より積極的に患者調査や菌株収集が行われたことによる可能性もある。20例は男性19例、女性1例で、年齢中央値は33.5歳（範囲16～49歳）であった。感染経路としては、20例中11例で飲食物の経口感染が推定されており、他の9例は感染経路不明であった。

細菌性赤痢は食中毒の重要な原因であり、国内感染例については、飲食店における集団感染事例や、輸入食材を原因とした広域集団感染事例なども複数報告されてきた。一方で、最も感染効率がよいとされる糞口感染による感染経路の確認も、感染予防のうえでは重要となる。細菌性赤痢の症例が報告された場合には、可能性のある全ての感染経路について確認し、適切な治療・予防につなげることが重要である。また、広域集団発生は、個々の自治体では散発例として報告される可能性があるため、疫学調査の際には菌の分子疫学的解析が必要であり、そのための菌株収集も積極的に考慮していただきたい。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(45週)	高知県(46週未累計) H23/1/3~H23/11/20	
			中央東	高知市	中央西							
内科・小児科	インフルエンザ			1				1 ( 0.02)		674 ( 0.14)	12,341 ( 257.10)	
小児科	咽頭結膜熱			2		1		3 ( 0.10)	1 ( 0.03)	754 ( 0.24)	321 ( 10.70)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			9	5	5	6	25 ( 0.83)	24 ( 0.80)	4,450 ( 1.42)	1,959 ( 65.30)	
	感染性胃腸炎	1	14	46	16	1	3	81 ( 2.70)	85 ( 2.83)	12,388 ( 3.94)	6,927 ( 230.90)	
	水痘		4	9	1		1	15 ( 0.50)	27 ( 0.90)	4,173 ( 1.33)	1,656 ( 55.20)	
	手足口病	8	1	7	6	1	4	27 ( 0.90)	28 ( 0.93)	2,936 ( 0.93)	3,273 ( 109.10)	
	伝染性紅斑			1	2	3	1	14	21 ( 0.70)	23 ( 0.77)	673 ( 0.21)	487 ( 16.23)
	突発性発疹	1	4	4	5	3	1	18 ( 0.60)	15 ( 0.50)	1,811 ( 0.58)	660 ( 22.00)	
	百日咳			1					1 ( 0.03)	1 ( 0.03)	85 ( 0.03)	41 ( 1.37)
	ヘルパンギーナ	1	1	3			2	5	12 ( 0.40)	10 ( 0.33)	334 ( 0.11)	947 ( 31.57)
	流行性耳下腺炎	5	1	12				9	27 ( 0.90)	33 ( 1.10)	2,316 ( 0.74)	442 ( 14.73)
	RSウイルス感染症			1	9				10 ( 0.33)	18 ( 0.60)	1,988 ( 0.63)	671 ( 22.37)
眼科	急性出血性結膜炎									80 ( 0.12)	1 ( 0.33)	
	流行性角結膜炎			5				5 ( 1.67)	4 ( 1.33)	361 ( 0.53)	52 ( 17.33)	
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 ( 0.14)	1 ( 0.14)	7 ( 0.02)	6 ( 0.86)	
	無菌性髄膜炎								1 ( 0.14)	39 ( 0.08)	23 ( 3.29)	
	マイコプラズマ肺炎			3				3 ( 0.43)	2 ( 0.29)	580 ( 1.25)	122 ( 17.43)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								2 ( 0.29)	12 ( 0.03)	11 ( 1.57)	
計 (小児科定点当たり人数)	16 ( 8.00)	27 ( 3.86)	114 ( 9.52)	36 ( 12.00)	14 ( 7.00)	43 ( 8.60)		250 ( 8.02)				
前週 (小児科定点当たり人数)	22 ( 11.00)	36 ( 5.14)	113 ( 9.55)	34 ( 11.33)	12 ( 6.00)	58 ( 11.20)			275 ( 8.83)	33,661	29,940 ( 836.57)	

定点当たり

第46週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(45週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ			0.06				0.02		0.14
小児科	咽頭結膜熱			0.18		0.50		0.10	0.03	0.24
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.82	1.67	2.50	1.20	0.83	0.80	1.42
	感染性胃腸炎	0.50	2.00	4.18	5.33	0.50	0.60	2.70	2.83	3.94
	水痘		0.57	0.82	0.33		0.20	0.50	0.90	1.33
	手足口病	4.00	0.14	0.64	2.00	0.50	0.80	0.90	0.93	0.93
	伝染性紅斑		0.14	0.18	1.00	0.50	2.80	0.70	0.77	0.21
	突発性発疹	0.50	0.57	0.36	1.67	1.50	0.20	0.60	0.50	0.58
	百日咳			0.09				0.03	0.03	0.03
	ヘルパンギーナ	0.50	0.14	0.27		1.00	1.00	0.40	0.33	0.11
	流行性耳下腺炎	2.50	0.14	1.09			1.80	0.90	1.10	0.74
	RSウイルス感染症		0.14	0.82				0.33	0.60	0.63
眼科	急性出血性結膜炎									0.12
	流行性角結膜炎			5.00				1.67	1.33	0.53
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14	0.14	0.02
	無菌性髄膜炎								0.14	0.08
	マイコプラズマ肺炎			0.60				0.43	0.29	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.29	0.03
計 (小児科定点当たり人数)	8.00	3.86	9.52	12.00	7.00	8.60		8.02		
前週 (小児科定点当たり人数)	11.00	5.14	9.55	11.33	6.00	11.20			8.83	

## 2011年週報推移(定点当たり)

